

あかね

令和6年9月2日(月)発行
薩摩川内市立川内北中学校

自主 友愛 奉仕 鍛錬

文責：校長 感王寺 等

みんなが楽しい2学期に

8月21日の出校日には広島市の平和記念式典での小6児童の「平和への誓い」の言葉をもとに、具体的に行動することの大切さを話しました。世界が平和であるためには、自分の身の回りが平和であること、違いを乗り越え言葉で課題を解決する力を身に付けることが必要です。その訓練の場所は、川内北中です。行事の多い2学期、行事に取り組む中でトラブルが発生するかもしれませんが、成長するチャンスでもあります。みんなが楽しい2学期になるよう、しっかり考え行動しましょう。



ご協力に感謝

夏休みの花火大会の街頭補導、2年PTA生活指導部の皆様、ご協力ありがとうございました。



また、次回は、夜でも腕章が目立つように工夫したいと思います。

花火大会の翌朝は、部活動有志による清掃活動を実施しました。今回は、男子バレー、男子テニス、女子バスケ、水泳部の皆さんが参加し、トイレ掃除や学校周辺のゴミ拾い、花壇の草むしりに汗を流しました。朝早くから参加してくれた部活動生の皆さん、ありがとうございます！



翌日の18日(日)は、1年PTAの愛校作業でした。172名の1年生と174名の保護者、32名のおやじの会の皆様に参加していただき、樹木の伐採や除草作業に取り組んでいただきました。お陰様で、きれいな環境で2学期や体育大会を迎えることができそうです。

様々な自然災害が多発する現在、地域の支え合う力が大切な時代となっています。社会を支える方々がいらっしゃることに気付くことや、その一員になることが大切です。ボランティアに積極的に参加し、そんな心を育てていってほしいと思います。

全国学調の結果

今年4月に実施された全国学力学習状況調査の結果(269名中243~244名受験)をお伝えします。

○ 各教科の平均正答率と全国比・県比

	通過率	県比	全国比
国語	53	-3	-5.1
数学	48	-2	-4.5

前年度の全国比と比較すると、国語+2.1、数学+2.5と改善しましたが、依然として県や全国の平均に届かない状況です。ただし、国語の知識技能の「我が国の言語文化」(文法)は全国比+8.8、数学の関数は県比+0.1と県平均並みや全国基準を上回る結果も出ています。課題は、国語の「話す・聞くこと」全国比-11.2、「読むこと」全国比-8.1、数学の「図形」全国比-9.3、「数と式」全国比-4.6となります。また、全国に比べ、上位層が少ないことも課題となります。分析結果を基に、今後学習する中で履修事項の復習や確認等進めていきます。

○ 学習状況調査より

「平日の1日当たりのゲーム時間」は、4時間以上が10.4%、4~3時間が10.4%、3~2時間が24.5%であり、3年の5割弱が2時間以上費やしています。また、「携帯・スマホでSNSや動画視聴(ゲームを除く)する時間」も、4時間以上が11.6%、4~3時間が10.4%、2~3時間が25.7%であり、2時間以上の割合はこちらも5割弱となり、両方の回答が同じ生徒だと考えると、ほとんどの時間をゲームやスマホに費やしていることとなり、学習時間の確保が課題となります。さらに、「携帯・スマホの約束を守っているか」は、10.0%が守れなく、15.4%は約束もない状態です。持たせるならば、生活を乱さないためにもルールの徹底をお願いします。

「自分に良いところがあるか」の「当てはまる」は25.7%と全国に比べ14.7%低く(「どちらかといえば」は52.3%)、その理由の一つは「先生は認めてくれるか」の「当てはまる」19.1%、「どちらかといえば」66.0%にあると思います。強評価が増える(子どもが自信を持つ)ように、生徒の良い点を更に褒めるように努めていきます。

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」は「どちらか」まで入れれば81.7%と多いので、ペアやグループの活動を取り入れながら、学習を進めていきと考えています。

明日から体育大会練・体育服登下校開始です。

P T A 教育講演会より

7月27日(土)、中央公民館にてP T A教育講演会を実施しました。今回は依存症の治療を専門とする指宿の竹元病院の松山裕希心理師を講師に、「ゲーム・イン



ターネットと上手に付き合うために」との演題で、講演していただきました。参加者が50名程度と少なく残念でしたが、とても有意義な内容でしたので、概略箇条書きで紹介します。

- ・ アップルのビル・ゲイツとマイクロソフトのステューブジョブズが我が子にスマホを持たせなかったことは有名な話だが、製品の開発には脳科学者が関わっていた。スマホは、脳に刺激を与えるよう依存させるように作られている。
- ・ 勉強中にアプリを使用した頻度と成績の関係には相関性があり、勉強中にスマホで音楽を聴くだけでも成績が下がった。LINEの通知音など気になり学習に集中できないためである。
- ・ 勉強してもSNSや動画等の利用の時間が長いとテストの平均点が下がるのは、睡眠時間が少ないことに一因ある。学力の定着には睡眠が必要である。
- ・ スマホ依存が進めば、自分の中の優先順位が変わってしまい、もっとスマホを求めるようになる。
- ・ 本来、人間の欲望(もっと〇〇したい)は、努力の先にあるもので簡単には手に入らないから意味があるが、スマホは手軽さが問題である。
- ・ スマホも息抜きや楽しみのレベルであれば問題ないが、触らないと落ち着かないとか、規制されるとイライラするようになれば、問題である。
- ・ WHOのゲーム障害の定義は、「ゲームをしたい衝動が抑えられなくなり、日常生活よりもゲームを優先し、健康を損なうなどの問題が起きて、続けてしまう特徴がある」であり、この症状が12ヶ月以上続く場合、疾病とするとあるが、短期間でも依存症と判断されるケースもある。
- ・ 飲酒やギャンブルは成人になってからであるが、スマホやゲームに年齢制限はない。脳が発達する時期に影響を与えることが、大きな問題である。
- ・ 脳の前頭前野は理性をつかさどり、人間らしくあるために物事を考え判断する最も重要な部分であるが、スマホやゲームはその前頭前野の発達に悪影響を及ぼす。また、睡眠不足でも前頭前野の働きを低下させる。
- ・ 基本的にはスマホやゲームを与える年齢を遅らせることが最善であるが、使わせるならばルール作りが必要である。

- ・ 子どもを指導するならば、大人自身が元気で、エネルギーが溜まっていることが大切である。
- ・ 使わせるにあたっては、ネット機器は保護者が子供に貸し与えているという姿勢が大切である。(購入も使用料金も保護者が負担している)
- ・ ルールは家族全員で同じルールを守ることが望ましい。食事中に使わないルールならば、大人も子どもも同じで、大人が見本になるべきである。
- ・ ルールを作る上で大事なものは、スマホを買い与える前や使い始めるときにルール設定するタイミングが良く、子どもが理解できるまでルール作りの必要性を説明し、押しつけではなく理解させることが大事である。
- ・ ルールが守れないときのペナルティーはしっかり実行させることが大事で、そのためにもお互い守れるルール(ペナルティー)作りが必要。
- ・ ルールは適宜見直しても良いが、ペナルティーに特別免除はもうけないことが原則である。
- ・ 生活リズムが乱れればメンタルがやられるので、最も重要なルールは、使う時間帯(特に終了時刻)を決めることである。
- ・ 既にスマホを与えている場合、しっかりとルールを守ること、自己コントロールすることが必要であることを理解させ、必要なときにはいつでも相談に乗るという姿勢を保護者が持つことが大事である。
- ・ ゲームやスマホで親子の関係が悪くなっている場合、止めさせる注意をするよりも日常会話を増やしてより良い関係づくりから取りかかり、させない時間の提案より、ゲームやスマホ以外の新しい習慣をつくるのが大事。また、相談できる人や場所を設けておく。
- ・ ゲームやスマホを止めさせることが目的ではなく、何が問題か考え理解させることが大事である。
- ・ ゲームやスマホも楽しみの一つ、これ以外にも楽しいことがあることが大事であり、楽しみがゲームやスマホだけに偏ってしまうことが問題である。
- ・ 正論を言ったり、間違いを正したりするだけでは、子どもは反発する。「正したい反射」を封印し、子どもの良いところ、強みを見てあげることが必要。
- ・ 一旦は子どもの気持ちを受け止めることや、アイメッセージで「私は〇〇だと思う」と自分の考えを伝えることが大事。また、「ちょっと今話せる？」と、相手が話を受け入れる状況であるかどうか確認すること、なるべく簡潔に伝えることも必要。
- ・ 10回のうち、1回でもうまくいったら大成功の気持ちで、少しずつ試し、やってみることが大事。
- ・ 久里浜医療センターのHPには、「インターネット依存テスト」「ゲームズテスト」「インターネットゲーム障害テスト」などありますので、必要な方はご活用ください。

スマホやゲームは平日1時間、時間を有効に。